

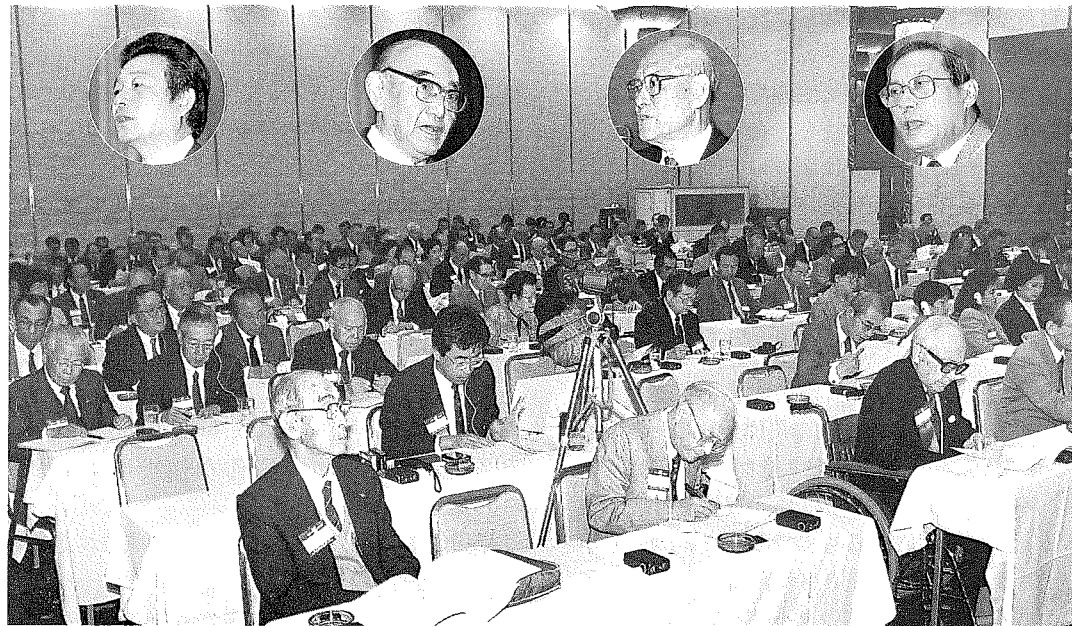
第2回ロータリー・アジア 親善会議開く

1990年5月1～2日／東京・キャピトル東急ホテル

ロータリー・アジア親善会議コーディネーター 大橋 章一

今回は日本でという、昨年3月、台湾において開催された第1回親善会議の申し合わせにより、元R I 理事菅野多利雄委員長が招集者となり、第255地区・鹿沼ロータリークラブホストのもと、5月1～2日、東京・キャピトル東急ホテルを会場に、第2回ロータリー・アジア親善会議が、日本の千宗室R I 理事、向笠広次元R I 会長、湯浅恭三元R I 副会長、藏並定男R I 理事エレクト、韓国の呉在環元R I 理事、宋仁相PDG、フィリピンのフランシスコ・デルガード元R I 副会長、台湾の会議委員長李超然P

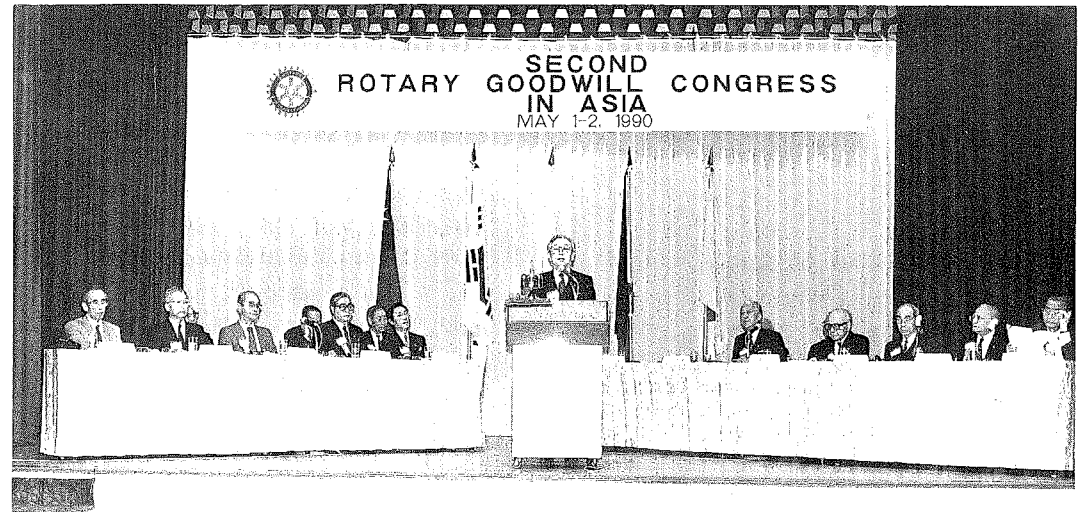
熱心に発言に聞き入る参加者。組み込み写真は左より、石井外務政務次官、李超然PG(台湾)、宋仁相PG(韓国)、R.ヘチャノバPG(比)。



DGはじめ4カ国のガバナー、パストガバナー、ガバナー・ノミニーおよび会員とご夫人を含め約300人の参加者を得て開催されました。

ことにフィリピンから3人の若い女性ロータリアンが参加、会員のご夫人とはまた異なったムードを漂わせ、堅くなりがちな会議の雰囲気緩和が和らいだことは、女性会員の入会を認めたロータリーのひとつの功績? でしょうか。

1日夕刻からの開会式の席上基調講演をされた千宗室R I 理事は、平和主義者であった千利休の「和敬清寂」の茶道の心はロータリーに通じるものがあると、感銘深いお話をされ、4カ



国代表による鏡開きのあと、向笠広次元R I 会長の乾杯の音頭により歓迎晩餐会が始まりましたが、グラスを持って遠来の友と旧交を温め合う人々、新しい友人を紹介される人など、和やかな光景がそこそこに見受けられました。

2日目の本会議は4カ国のロータリーの現況報告から始まり、韓国の朴昌源DG、フィリピンのハーマン・ガンボアDG、台湾の李祐自PDG、日本の田辺賢三DG会議長よりそれぞれ資料またはスライドを映写した詳細な説明があり、次いでフィリピンのフランシスコ・デルガード元R I 副会長は「ロータリーは平和について何をなすべきか」、韓国の金興漢PDGは「ロータリーは英語を話す人たちによってのみ運営されていないか」と、参加者に問題を投げ掛ける講演をされました。また記念講演は石井一二外務政務次官より「アジア太平洋諸国の経済、社会情勢、発展途上国への投資、インドシナ情勢、受け入れ留学生の問題など」同諸国の現状と日本の果たすべき役割について1時間にわたる非常に興味あるお話を伺うことができました。部門別協議会の世界社会奉仕はフィリピンのラファエル・ヘチャノバPDG、青少年交流の諸問題について韓国の南宮煥PDG、国際共同委員会は台湾の許常山DG、アジアの平和について日本の松尾明PDGがご自分のお考えを述べその実現を促され、次の竹山涼一PDG司会のオープンフォーラムでは十数人の方々の

5月1日の開会式であいさつする招集者菅野多利雄元R I 理事(中央)。向かって右壇左より千R I 理事(当時)、向笠元R I 会長、湯浅元R I 副会長、デルガード元R I 副会長、呉元R I 理事。左壇前列右よりホストの第255地区石原G、第252地区山内G(いずれも当時)、鈴木PGとホストクラブ鹿沼RC鈴木会長(当時)と筆者。

活発な発言があり、1時間の予定を30分延長しても足りないという盛況でした。

閉会式で3項目の決議が上程されましたが、第1項の今回の会議で協議された世界社会奉仕、青少年交流、国際共同委員会、平和の推進について参加各国は最大の努力をし、その実現を図ることが決議されたのは大きな収穫であります。

2日夜のお別れ晩餐会をもって、大成功のうち2日間の会議の幕を閉じましたが、この会議の成功は日本ガバナー会のご理解と各地区の温かいご援助ならびにホストの日本委員会のおかげと感謝しております。特に1週間前に地区大会を開催したばかりで、まだお疲れの取れぬ第255地区の石原敬士ガバナーを頂点とする、鹿沼ロータリークラブ会員の方々の親身も及ばぬご努力には、心から厚くお礼申し上げる次第でございます。本当にありがとうございます。第3回親善会議は来年5月、日本の連休後を予定したいと韓国の方から伺いましたが、また韓国でお会いできることを楽しみにしております。(第255地区 1981-82年度G 佐野RC)